

応用植物科学コース 作物開花制御学

メンバー： 博士:2人, 修士:3人, 学部:6人

✿ 後藤 丹十郎 教授

キク科植物の露芯花抑制方法の開発

ダリアやアスターなどのキク科植物の中心部が露出している花を露芯花といい, 市場での価値低下の原因となっている。気温や日長などの環境を調節することで露芯を抑制する方法を開発する。

CO₂に対する植物の順化反応の機構解明

長期的に高濃度CO₂を施用した場合, 光合成速度が低下する。この原因を解明することで植物のCO₂応答を明確にし, CO₂の施用の効率化を図る。

高温期での安価で容易な高品質苗生産方法の開発

栽培中の高温障害の回避法として, 間欠冷蔵, 根域制限育苗などがある。これらを用いて, デルフィニウムの開花制御に関する研究を行う。

✿ 遠藤 みのり 講師

省カスマート栽培に適したイチゴ新品種の開発

イチゴの脇芽の発達のしやすさを定量化し, 脇芽利用による超多収化や省略化に向けた研究を行う。

アスパラガス地下茎の分枝制御による栽培・増殖技術の開発

アスパラガスの鱗芽群(地下茎)は分枝を繰り返して成長する。分枝を把握・制御することで, 収穫予測を行い, 計画生産や効率的な増殖を目指す。

ラナンキュラスの分枝を生かした多収化

ラナンキュラスの分枝性は収量性に関与する。特異的な分枝性を持つ系統の作出や栽培技術による分枝性の制御を行う。